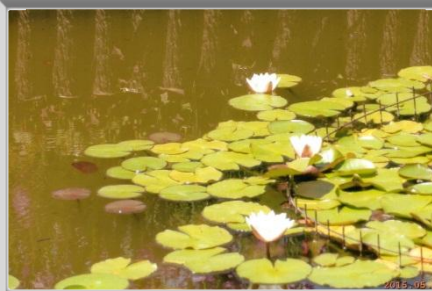


筑波のかえる 第35号



脳損傷友の会・いばらき
2017年6月15日発行

わたしの一枚



脳損傷友の会・いばらき

〒300-2622

茨城県つくば市要1187-299

筑波記念病院リハビリテーション部内

TEL 080-8430-3365

FAX 029-877-4688

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://www.geocities.jp/nousonshouibaraki/index.html>

35号内容一覧

はじめに	1
役員会から	2
平成29年度総会・当事者活動	3
事例検討会・システム協議会	5
家族会交流室について	6
神栖の広場	7
県南の広場・参加者の声	8
県北の広場	10
ファミリハカフェ・新任紹介	12
施設訪問『オアシス』	14
障害者のための災害情報サイト	15
子どもの作文集より・編集後記	16



今号の表紙は、2年前の5月、県南集会で霞ヶ浦水郷公園に行った時に当事者の方々が写した写真です。

『睡蓮』丹羽まどかさん

『あやめ』宮嶋雅子さん

『花壇』菅原君子さん

はじめに



まだ若い稲の葉が風にゆれる何ともさわやかな季節になりました。上天気恵まれ本日の総会が開催され審議も滞りなく終了しました。新しい年度が始まります。

毎月第2金曜日に開催している家族会交流室へ、先日40歳代の息子さんと生活しているお母さんが来室しました。発症してから17年が経過していて、精神科にて高次脳機能障害の診断を受け服薬しています。現在収入はない状態とのことで、お母さんとしても将来を考えめぐねて誰に相談したら良いのか探していました。居住地の自治体が最近発行したパンフレットをみて期待を持って福祉窓口へ相談に行ったそうです。ところが職員の返答は、使えるサービスは何もないというばかりで、切実な思いで相談に来たお母さんは思わず大声で泣き出してしまったとのことでした。

15、6年前家族会設立当時は、同じような事例は沢山ありました。また、通所先から利用を断られる事例も多くありましたし、これもまた同じように最近でもいまだにあります。家族としては、突然の大変な事態に頭の中は一杯で余裕がない中、藁をもすがる思いで相談に行きます。そこで利用出来るものは何もありませんとか、施設利用を開始したものの周囲に迷惑がかかるので今後通所利用はやめて下さいとの言葉は、家族の気持ちが砕け散り奈落の底に突き落とされる気持ちになります。もしその時手立てが何もなくても、この現状を少しでも良い方向へ持って行ける対策のヒントを探して提示して下さる方がいたら、どんなに救われることでしょうか。尋常ではない事態に途方に暮れる当事者や家族には、何が問題なのかを見極められる相談先の存在がまずは先決です。

高次脳機能障害支援拠点機関が県内に周知されその役割りが十分に発揮できるように、拠点機関の組織化、予算化は必須な条件です。支援コーディネーターは現状では兼務の仕事をしながらの業務です。その力を十二分に発揮できるように専任化も大事な要件になります。

会報誌今号に「家族が突然高次脳機能障害になった、子どもの作文集」から抜粋を掲載しました。当事者を介護する父や母のそばで一步引いた視点でながめ体感している子ども達や兄弟達の本音です。作文集を読むと、家族全員がこんなにも大変な生活を強いられてくるものかと改めて思います。いつもスポットの当たることになる当事者や介護者の陰で、もがき苦しむ子ども達兄弟達がいることを周囲にも知って欲しいと思います。そしてその子ども達が成長し、それぞれの声を挙げて家族会の仲間として歩んでくれたらと思いました。

今年度も会員の皆様方のご協力、ご支援の皆様方のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

(丹羽)

役員会から

平成 29 年度 脳損傷友の会・いばらき 事業予定

項目 月	会 員	役 員 会	そ の 他
6月	4日 総会 9日 家族会交流室 11日 県北集会 14日 神栖集会 24日 コラージュ教室	20日 役員会	15日 会報紙発行
7月	12日 神栖集会 14日 県北家族の集い 14日 家族会交流室 18日 意見交換会 29日 コラージュ教室		
8月	9日 神栖集会 20日 県北集会 26日 コラージュ教室	8日 役員会	
9月	8日 家族会交流室 13日 神栖集会 22日 県北家族の集い 30日 俳句教室	19日 役員会	15日 会報紙発行

役 員 会 報 告

- 平成 29 年 3 月 21 日 議事 (1) 28 年度の会計に
(2) 29 年度事業について
- 平成 29 年 4 月 17 日 議事 (1) 総会資料検討・総会時の役割
(2) システム整備協議会、リハビリ講習会について
- 平成 29 年 5 月 16 日 議事 (1) 要望書提出の時期、補助金使用対象に関して
(2) 今後の家族会についての意見交換の場に関して

家 族 会 交 流 室 か ら の 報 告

- 平成 29 年 3 月 10 日 相談者なし、家族会員 2 名
県リハ:寺門氏
- 平成 29 年 4 月 14 日 相談者 2 名、家族会員 2 名、
県障害福祉課：村田副参事、垣内主任
ケアステーションモリヤ米澤氏
- 平成 29 年 5 月 12 日 相談者 1 名（電話相談 1 名）、家族会員 1 名
県障害福祉課：村田副参事、中嶋課長
県リハ：小原課長、山中氏
交通事故被害者家族ネットワーク：岡村氏
- 平成 29 年 6 月 9 日 相談者 3 名、家族会員 2 名
記念病院：山倉氏、



総会報告

6月4日（日） 石岡市ふれあいの里ひまわり館介護研修室において、平成29年度の総会が行われました。参加者は、正会員家族13名、当事者7名、賛助会員3名、支援者1名でした。今回は、会費の減額に伴う規約改正についての問題提起もあり、参加者の少なさが例年よりも強く感じられる開催となりましたが、慎重な審議により、すべての議案につきまして提案とおり承認可決されました。最後に会長より、現在の会の状況、また今後の会の運営等についての問題の投げかけがありました。今後いろいろと話し合う機会が増えることと思いますが、自分たち自身の問題として考えさせられる総会になりました。



総会の中の当事者活動は、賛助会員の方も支援者の方とともにサポートを引き受けてくださり、お茶を飲みながらゲームをしました。時間をオーバーするほど熱が入りとても楽しいひとときだったようです。

その後、全員で、フラダンスとハワイアンショーを楽しみました。当会の賛



助会員でもある東さんの所属するAOI（アオイ）アイランダーズのハワイアン演奏でフラダンス（ナプアレフア）を鑑賞したり、懐かしい歌を一緒に歌ったりしました。皆さん本当にお上手で心までゆったりと楽しい笑顔になれたひとときでした。皆さんお忙しい中をご出演くださりありがとうございました。

《当事者活動》

研修室で総会が行なわれている間、私たちは同じ建物の中にあるレストランに集まり、ウノ（カードゲーム）を行う予定となっていました。みんな揃ってレストランに向かうと、とても広々として開放的な雰囲気でした。レストランの入口からは少し離れていましたが、庭の新緑がよく見える、眺めの良い窓際を選んで座ることに決めました。

メニュー表を見て、好きな飲み物をそれぞれ選んだのですが、飲み物のメニューも豊富なので、どれにしようか…みなさん真剣に悩んでいました。飲み物が運ばれるまでの間、まずは総勢11人で自己紹介をしました。初めて顔を合わせる方、近況報告、屋外作業でコンガリ腕が日焼けしている方、珍しい苗字に驚く方、近隣の施設の話など、自己紹介以外にも話がはずみました。途中で飲み物が運ばれてきても、楽しいお話は続けました。

さて、目の前にあるウノの存在を忘れるところだった！ということで、新品のウノを開封し、テーブルの上に広げてみんなでシャッフル。ウノ経験者と未経験者がいたので、未経験者はウノ経験者のベテラン（自称）の方とペアで行ってもらうことにしました。ジャンケンをして最初にカードを置く人を決め、9組でいざスタートです。

しかしウノが始まってみると、ベテランだったはずの人もルールがうろ覚え…。結局、説明書を見ながら、なんとか進めていきました。リバースで順番が逆になったり、スキップで自分の番がとばされてしまったり、一喜一憂、忙しくも楽しいゲームです。あっという間に時間は過ぎ、ゲームの途中で終了の時間が来てしまいました。ようやくルールがわかってきた頃に終了で、みんな残念そうでしたが、また機会があったらやってみたいね！と話をしました。今度は、家族のみなさんも一緒にできたら良いですね。楽しい時間を共有できたこと、この場をお借りして感謝致します。ありがとうございました。

作成：小坏（こあくつ）仁美（フロイデ工房しろさと）



大人とこどもの高次脳機能障害の支援を考える会いばらき 報告

5月17日(水)19時より筑波大学付属病院会議室にて、24名の参加者により開催されました。昨年から開催している事例検討会の名称が変わり、今回で第5回の開催になります。今回の事例は69歳の女性、担当のケアマネージャーなど関係者の参加もありました。発症から1年半ほどの病状でまだ落ち着かない時期ですが、そばにいる家族は回復への働きかけに心を砕いています。参加の皆様からはその気持ちに添った数々の助言をいただきました。何より終了する頃には家族の表情が明るくなり元気が蘇るように感じました。参加いただきました各種専門職の皆様、会場提供いただきました石川先生、事務局の米澤様に感謝申し上げます。

次回は、7月頃の開催予定です。関心のある方は下記までお問い合わせ下さい。

「大人とこどもの高次脳機能障害を考える会いばらき」

URL:<https://koujinou-ibaraki.amebaownd.com/>

メールアドレス: koujinou.ibaraki@gmail.com

茨城県高次脳機能障害者支援システム整備協議会 報告

平成29年3月22日県立リハビリテーションセンターにて開催されました。

①各事業(人材育成、普及啓発、支援ネットワーク構築、相談支援)の進捗報告

②議題1として今年度事業計画について

③議題2として平成30年度以降の地域支援システム整備について、意見交換しました。

③についてこれまでの議論された基本的な方向性:民間病院に業務を委託すると兼務になる。より良いものにしていくためには支援拠点業務の専任体制が必要になる。医療との連携については複数の協力病院を立てて、それらの連携の中で運営する。

支援センターとして、まず建物建設ではなく、各専門職で組織した支援拠点グループを編成し、各地域に出向いての支援ができる組織を作る。県リハ廃止後、新たな体制を創設する過渡期にはダブルファンドが必要。予算配置に関して県は十分配慮すべき。との議論でした。

これからの支援についての課題:他の病院に支援拠点を置くことを考える場合、急性期病院や精神科、リハ科のそれぞれの特性から、社会生活や福祉、就労、教育面での連携のために外に出向いていく業務は難しい。専任の人材確保が必要になる。高次脳機能障害は発症から社会生活まで長期的であり、障害が個々で多種多様であるため支援には専門性が必要であり、かつ多角的アプローチがよりよい支援につながることを考慮すべきである。

当事者や家族は血の通った専門家のフォローを求めています。その実現に向けて実効性のある議論が展開されるよう願っています。



家族会交流室について

毎月第2金曜日に家族会交流室を開くようになり5年目。毎回何件かの相談を受けたり、情報の交換の場として定着してきました。さらに昨年からは、県立リハビリテーションセンターから支援コーディネーターが毎回参加され、来室者の相談の対応に大変大きな力をいただいております。県内では、その他に県北や神栖でも家族の集いや集会を開いております。茨城県は地理的にも広く、様々な理由で交流室まで来られないという方も、それぞれの地区での家族の会は、大きな支えになっていることでしょう。前回の「筑波のかえる」でも簡単にお知らせしましたが、今年度も引き続き県立リハビリテーションセンターから毎回支援コーディネーターを派遣して下さることになりました。今年度は、交流室だけではなく、水戸と神栖での会にもローテーションを組んで参加して下さることになりました。6月以降の予定をお知らせいたしますので、相談されたい方、お話をお聞きになりたい方は是非おいでください。参加される支援コーディネーターは変更になる場合がありますので、事前に確認されたい方、また事前に相談されたい方は、ご遠慮なくお電話ください。

(0298-87-2605 県立リハビリテーションセンター 相談直通)

なお、家族会交流室に対するお問い合わせは 080-8430-3365 です。

「県北家族の集い」に支援コーディネーター参加月	7月、9月、11月、1月、3月
「神栖集会」	// 6月、8月、10月、12月、2月
「家族会交流室」	// 7月、9月、11月、1月、3月

☆ 家族会交流室は8月はお休みします。



お知らせ

賛助会員の加藤萬嬉子さんより、未使用のハガキをたくさんご寄附いただきました。

会の連絡等に、有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

神栖の広場

毎月、第二水曜日の集会在定着してきました。4月からは、偶数月にコーディネーターを交えての相談も加わり、一步踏み込んだ解決策が見い出せるのでは？と期待しています。

4月の集会は、廣末コーディネーターと初めての参加の会員さん親子も加わり、コーディネーターのアドバイスと私たちの体験談等、濃い話し合いができました。

毎月1回発行の「社協ニュース」にも取り上げて頂いているので、遠方で相談に行けず悩んでいる方にも、これを機会に不安・疑問が軽減できればと思っています。

水戸市で楽しいマラソン大会が、6月18日(日)にあり、息子が10kmに参加します。昨年が第1回で、千波湖一周走りました。「メロンメロンラン」です。何と給水所で、メロン食べ放題なんです。今年はそれにスイーツ、ドリンクも加わるとのこと。散歩コースもあるので、次回は、会の皆さんも一緒にいかがですか？

神栖市で活動する当事者グループ「高次脳機能障害を考える会」

この会は「脳損傷友の会・いばらき(高次脳機能障害の方や家族が情報交換や学習会を通じて、交流を目的とした家族会)」に参加していた鹿行地区在住の当事者家族が“障害についてもっと気軽に話し合える場所を作りたい”との思いを持ち、平成17年に結成されました。毎月1回の定例会は、本人との接し方や就労、自立していくことなどについて情報交換をして、障害への理解や関わり方のヒントを発見していく場となっています。代表の石井さんは「相談できる機関や利用できる施設が少ないことが現状です。相談できずに悩んでいる当事者やその家族が少しでも安心できるように、自分たちが経験してきたこと、学んできたことを伝えていき、少しでもネットワークを広げていきたい」とお話し下さいました。



代表の石井安雄さん

★高次脳機能障害を考える会 毎月第2水曜日開催(保健・福祉会館内) 4月は12日(水)に開催します。
お問合せ先: 社協神栖本所 TEL0299-93-0294(担当: 三浦)

高次脳機能障害を考える会

6月は14日(水)に開催します。

【毎月第2水曜日、午前10時30分から開催。場所: 保健・福祉会館内】

高次脳機能障害は、事故や病気などで脳が損傷を受けたことが原因で起こる、言語や記憶機能の障害です。脳の損傷であるために外見からはわかりづらい障害であり、様々な面で生活のしづらさが残ります。

高次脳機能障害を考える会では、情報交換を通してメンバー同士の交流や広くこの障害を知ってもらうための活動にも取り組んでいます。また、茨城県立リハビリテーションセンターの高次脳機能障害者支援コーディネーターが偶数月に来会しますので、障害についての悩みや利用できる制度等について直接相談することができます。お気軽にお問合せください。



■問合せ先: 社協神栖本所 担当: 萬代^{ましろ} TEL0299-93-0294

県北の広場

平成29年度がスタートしました。

今年度も2つの活動を計画しています。

- 「県北集会」・・・当事者・家族・支援者でレクリエーションと茶話会を楽しみます。

(偶数月の日曜日に開催 / 年6回)

～毎回、支援者の皆さんが楽しいレクを企画しています。

(音楽、運動、クラフト、クリスマス会等々♥) ～

- 「家族の集い」・・・家族・支援者でおしゃべりします。(情報交換)

(奇数月の金曜日 10:00～12:00 開催 / 年6回)

開催日、時間、場所は、会報「筑波のかえる」、「おしらせ」でご案内します。

どの地域にお住まいでも参加できます。みなさん楽しくつどいましょう。

すでに第1回県北集会を終えました。報告は右ページをご覧ください。

ご報告

- 平成28年度第6回集会で整理した使用済み切手は、去る3月17日、水戸市社会福祉協議会に寄付して来ました。
- 「平成29年度 第1回家族の集い」を開催しました。
 - ・5月14日(金)水戸市福祉ボランティア会館 小研・参加者8名
(県コーディネーター 清水さんがご参加下さいました)

県北集会は、支援者や学生の皆さんと和気あいあい楽しい時間を過ごしています。

今回は、支援者のお一人、渡辺円美さんに一言寄せていただきました。

～友の会のみなさんへ一言～

いつも楽しい時間をありがとうございます!!

今年度私が担当するのは、8月と2月です。

8月には物作り、2月には切手整理を行います。

面白そうだな～と思ったら、県南からの参加も大歓迎ですよ～♪



プロフィール

渡辺円美(わたなべ まるみ)

職業: 作業療法士など

趣味: 手芸、畑、映画鑑賞などなどたくさんあります!



平成29年度 第1回県北集会 平成29年4月9日(日)

場 所 : 水戸市身体障害者支援センター つどい
内 容 : レクリエーション(歌って踊ろう)と茶話会
参加者 : 19名(当事者3、家族5、支援者7、学生4)



4月集会のテーマは、「桜の下で歌って踊ろう」でした。
が、あいにくの雨、室内での活動となりました。
戸外は、桜の花がきれいに咲いていました。
お部屋の中では、歓声の花が咲きました。



- 受付係は、当事者も担当。
名前確認、参加費を集める等します。

こんにちは!



- 身体をほぐす軽体操(ミニレク)、
春の歌を歌って春を満喫しました。



- 「高校三年生」や「みんながみんな英雄」を歌い、
次にフォークダンス(マイムマイム)を隣の人と手をつなぎ、座って踊りました。
楽しく盛り上がりました。



ハイ!ハイ!



- 茶話会では、今後の活動内容を話し合いました。
そろそろ、美味し物を作ろうかな!?

(報告:飯田 房枝)

ファミリハカフェ

県立リハビリテーションセンターでは、今年度も、家族リハビリテーション教室「ファミリハカフェ」を毎月第3金曜日に開催しています。毎月、テーマは違いますが、5月は「脳損傷友の会」についてがテーマで、役員4名で参加してきました。センターからも何名も参加され、ピアカウンセリングについてや、センターでの取り組み、また出席された方たちの相談に対するアドバイス等、大変勉強になりました。その他、会員を含め出席された3人のご家族の方たちも和やかな中にもお互いにアドバイスをし合うなど、とても楽しく有意義なひとときを過ごすことができました。



県立リハビリテーションセンター

新任支援コーディネーター紹介

友の会の皆様、初めまして。今年度から支援コーディネーターを務めることになりました県リハの鶴岡と申します。私は職業指導員として当施設を利用されている方々の職能訓練指導及び就職者・復職者の就労支援を担当しております。

長きにわたり高次脳機能障害の方々との向き合い、就労支援を行って参りましたが、多様な症状が現れるこの障害に支援の難しさを感じ、日々、悪戦苦闘しております。

近年、障害者を取り巻く環境にも変化が見られ、平成27年4月には茨城県障害者権利条例の施行、平成28年4月には障害者差別解消法が施行され、来年4月には精神障害者が法定雇用率の算定に加わることになり、障害者に対する配慮や理解が得られるようになってきました。支援者にとっては多様化する障害の種類に対応して適切でタイムリーな支援が求められていると考えております。

高次脳機能障害の方々とその御家族が希望を持って生活・就労が出来るようサポートしていきたいと思っております。至らない点があるかと思いますがどうぞ宜しくお願い致します。

鶴岡 祐子

平成29年度 茨城県立リハビリテーションセンター

高次脳機能障害者家族リハビリテーション教室「ファミリハカフェ」

日程 *開催日は定例として毎月第3金曜日です。

日 程	<メインテーマ>
4月 21日	脳卒中や事故などの後遺症がある？
5月 19日	家族として知っておきたい「脳損傷友の会いばらき」
6月 16日	本人が自分の障害を理解できていない
7月 21日	家族として感じるストレスをどう解消したらよいか
8月 18日	家に引きこもりぎみで外出しようとしな
9月 15日	怒りっぽく思うようにしないと気がすまない
10月 20日	共倒れになってしまう「共依存」って何？
11月 17日	何度繰り返し言っても伝わらないのはどうして？
12月 15日	仕事ができるようになるには？
H30.1月 19日	家族として知っておきたい高次脳機能障害者の地域支援
2月 16日	家族として知っておきたい「自助グループのあり方」
3月 16日	これまでのファミカフェ、これからのファミカフェ

*参加費は無料ですが、参加される方は必ず下記に記載の窓口へ電話予約をしてください。なお、初回参加の方にはご本人の簡単なプロフィールやカフェへの要望等をお伺いいたします。

申込みは（☎029-887-2605）まで。

*メインテーマは要望などにより変更もありますのでご了承ください。

就労支援施設訪問

★オアシス就労移行支援・就労継続B型支援

所在地 那珂市鴻巣550
TEL 029-212-7641



那珂市の広大な畑に囲まれた
平屋建ての作業所

＜受け入れ＞

- 精神障害
- 身体障害
- 知的障害
- 難病

＜支援内容＞

- 作業訓練
- 生活訓練
- 社会参加
- 就労支援

海産物の袋詰め作業
流れ作業的に秤で計量
する人と袋詰めする人、
職員がサポートする。



ボールペン組み立てから
箱詰め作業

施設長との面談を終えて

最近、就労支援施設は増加傾向であります。実際に就労につながるまでには難しい諸問題が起こることが多いようです。そんな状況の中、オアシスさんでは、一人でも多くの方が社会に出ていくことを目標として支援してくれています。職員さんが多種多様の職種や内職を見つけてチャレンジさせてくれるようです。

障害者のための災害情報サイト プレオープンのお知らせ

日頃よりNHKの福祉番組にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

このたびNHKでは、障害者・高齢者など、災害時に支援を要する方々を対象にした情報サイトを新たに立ち上げました。

2011年の東日本大震災や、2016年の熊本地震では、多くの障害者や高齢者が必要な支援を受けられずに孤立しました。そうした方々が再び“取り残される”ことのないよう、日ごろからどのように備えればいいのか、防災・減災のためのヒントを障害等別にまとめたものです。また、大災害が発生した時には、安否情報や支援情報を随時掲載していく予定です。

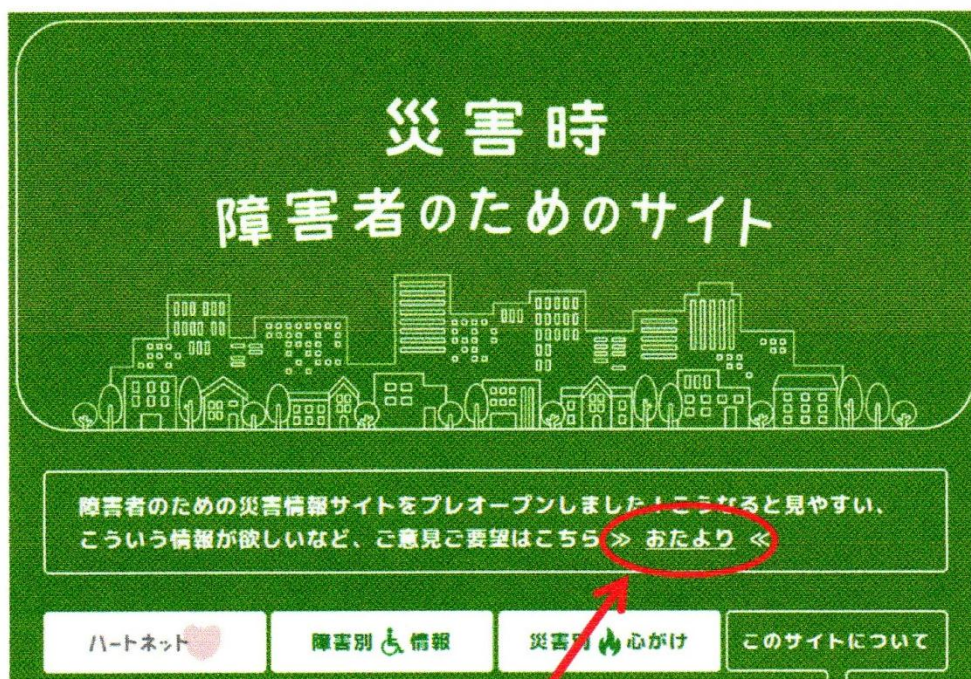
サイトの作成にあたっては、さまざまな障害者団体や自治体が発行している障害者・高齢者向け防災マニュアル等を参考にさせていただきました。しかし、まだ不十分な点もあるかと思えます。

そこで、できるだけ「当事者」の方々にとって使いやすいサイトになるよう、みなさんのご意見を取り入れながら、内容を充実させていきたいと考えています。

つきましては、ぜひサイトをご覧ください、内容やアクセシビリティ（利用のしやすさ）について、ご意見・ご要望がありましたら、お聞かせください。

サイトのURLは <http://www.nhk.or.jp/heart-net/special/saigai> です。

（こちらがトップページの画面です）



ご意見・ご要望は、サイト内の「おたより」フォームからお送りいただくか、メールアドレス shikaku@nhk.jp または F A X 03-3465-8010 までお願いします。

家族が突然、高次脳機能障害になった
《子どもの作文集》より



「 思 い 」

岩手県 細川 歩

小学校5年生の2月、私のお父さんは静岡県で倒れました。正直当時の事はほとんど覚えていなく、記憶は断片的に少ししかありません。

夜、お母さんに起こされて目を覚ますと、いつも勝気で泣くことなんて想像が出来なかったお母さんが、目にあふれそうな位に涙をためて「歩、ちゃんと聞きなさい。お父さんが倒れた。死ぬかもしれない。」といいました。

何を言っているのか理解できずに、ただ涙が止まらなかったことを覚えています。

翌日、病院について、白衣やゴム手袋をつけるようにいわれて、ICUの中に入りました。この時の事は、心電図の機械音だけは鮮明に覚えています、情景は真っ白で何も思い出せません。ただ、お父さんを見た最初の印象は「この人は誰だろう？」と、思って、看護婦さんやお母さんに、お父さんに声をかけてあげてと言われても、怖くて声をかけられませんでした。

何日、静岡に居たかは覚えていませんが、明日から、また学校へ行くとなった時、友達は何も知らないでいて欲しい。何も聞かないでほしいと強く思いました。でも、クラスの友達が、すぐに駆け寄ってきて「先生から聞いたよ。大変だったね。分かるよ。でも大丈夫だからね。」と言われました。

それは私を想い、心配してくれての優しさでしたが、当時の私には「両親が元気なのに、何が分かるのか…？」と、友達の優しさに、すごく嫌な気持ちになり、ありがとうとはいえませんでした。

そのころから、自分の気持ちはだれにも分かってもらえない。分かるわけがないと思うようになって、親と喧嘩をしたとか最近お父さんがウザいとか、友達の親に対する何気ない会話には一切加わず、自分の中で壁を作っていました。

高校1年の夏。あしなが育英会の集いに夏休み参加をすることになりました。東北6県の高校生・大学生が集まり、二泊三日過ごすとの事。

最初は行きたくなくて、バスに乗る直前までお母さんに帰りたいと訴えていました。でも着いてすぐに、沢山の人が声をかけてくれて、すぐに打ち解けることが出来ました。様々なレクレーションをして、仲良くなった後『自分を語る』という時間がありました。集いに参加している全員が、親を病気や事故などによって、障害を抱えたり、死別しています。

凄く明るく元気な友達が、胸の内を話し始めた時に、今までずっと抱いていた『自分の気持ちはだれにも分からない』という思いがなくなり、一人ではないとすごく思いました。

あの時、集いに参加していなかったら、ずっと心のどこかで壁を作って、マイナス思考のままだったと思います。

昔の私は『何故自分だけが、お父さんが倒れさえしなければ、こんな思いはしなくてよかったのに』と思っていました。今は悲しい思いをしたから、少しは強く、優しくなれているのではないかと思えるようになりました。

そして、お父さんが倒れなければ出会う事のなかった、沢山の大切な人がいるので、めぐり合わせてくれたことへ、おかしいかもしれませんが感謝しています。

編集後記

今号の表紙を飾った素敵な3枚の写真は、当事者の方々の作品です。今までにも、短歌や詩などを紹介させていただきましたが、様々な場面で頑張っている当事者の方々は、たくさんおられると思います。先日の総会では、7名の当事者の参加があり、カードゲームの「ウノ」に興じたり、ハワイアンバンドの演奏を楽しんだりしましたが、その時の笑顔が印象的でした。また、パラリンピックで一躍有名になった「ボッチャ」という競技に励んでおられる方の噂も耳にしましたので、ぜひ次号では採り上げたいと思っております。

ご家族や賛助会の皆さま、このように紙面に載せる作品や話題等ありましたら、どうぞ気軽にご連絡ください。お待ちしております。